

なかぶん子ども食堂のフードパントリーに参加して

C318088 安松亮

○日時 令和3年 1月16日 第三土曜日 13:00~14:00

○場所 名古屋市中区文化センターに隣接する公園

○活動の主な流れ 12時か42家庭分の袋づめをし13時から14時まで開催された。公園にて整列してもらい各家庭に袋分けされた食材を渡す。受け取ったら名前を書いてもらう。子どもはくじ引きを引いてもらいお菓子を渡す。14時から15時まで掃除や片付けをし、次のパントリーに向けてお米の袋分けを終えて解散。

○なかぶん子ども食堂の概要 3年前に貧困の子どもに向け立ち上げられた。当時は会食の形で運営されていたがコロナ禍により半年ほど活動が出来なかったが11月からフードパントリーの形で再開された。食材はフードバンク愛知やロータリークラブによって寄付されたものだ。また地域の助成金によってチラシの代金や追加の購入物が成り立っている。名古屋市の中心の栄にあるが、少し外れたところにあるため中心部のようなビルがない。過去に部落差別があったとされている郊外である。近くには小さな小学校が2つあるがそこに在籍する6.7割の子どもがシングル家庭である。家計に苦しむ子どもたちが少ない事実には驚いた。なかぶん子ども食堂では民選議員と繋がりがあるため本当に困っている家庭に配ることが出来ると述べた。またなかぶん子ども食堂では医療関係との繋がりを持つため健康の面でもサポートしている。

○感想 なかぶん子ども食堂では中区の子どもたちに焦点を当てて、気になる家庭には民選議員と繋がりしっかり食材を届けられるシステムを確立しているのは素晴らしいと思った。中区のこの地域ではご老人が多く子どもが少ない事実から困窮しているご老人もいるのではないかと考えられる。子どもだけでなくご老人にも食材が行き渡るように寄付文化のさらなる発展を目指す必要を感じた。またこのコロナ禍で生活困難になる人が多数いるならで子ども食堂の開催が難しいのは辛いことだ。今こそ本当に子ども食堂の真価が問われるのではないかと感じた。



【日進絆子ども食堂 報告書】

上條人生

開催地：にぎわい交流館駐車場

開催日：2021年1月10日(日)

開催日時：10:00～11:00

開催者：NPO 絆

開催内容：フードパントリー

定員：先着 30 家族

配布食材：お米 1 キロ・そば・レトルトカレー・馬鈴薯・玉葱・お菓子・缶詰・リポビタミン D キッズ・エナジードリンク・その他、小口寄付の数々の食材

寄付者：大成製菓・JA 尾東・平松様・絆子ども食堂ファーム・その他、多くのファミリーマート三本木町店ご寄付の皆様



今回は、初めて日進絆子ども食堂のフードパントリーに参加した。日進絆子ども食堂は、にぎわい交流館でご飯を提供していたが、新型コロナウイルスの影響により交流館が使用できなくなった。そのため、2020年3月以降はフードパントリーに切り替え、食材を配布している。今のところ、居場所としての子ども食堂の再開の目処はたっていないようだ。

フードパントリーはドライブスルー式で行われた。配布食材はお米や野菜、レトルト食品やお菓子などと多くのものが配布された。野菜が入った袋、その他の食材が入った袋、お菓子の箱の3つに分けられていて、ドライブスルー式ならではと言っても良いほどの重さと種類だった。先着順のため、開始時間の10:00より前から多くの車が並んで待っていた。中には「列が交差点まで連なっているため、車をどこに停めたらいいか」と聞きに来る子どももいて、多くの人が待ち遠しにしていたのだと感じた。

コロナ対策としては、ドライブスルー式で、受け取りに来た人は車から出ずに受け取ることができるため安心して来ることができる。配布側は必要最低限のスタッフとボランティア、且つ屋外開催のため密を避けることができていると、対策はできていた。

フードパントリー終了後、主催者の山崎さんに日進絆子ども食堂についてのお話を伺った。日進絆子ども食堂は多くの方から食材を寄付してもらっており、神戸物産や流通関係を始めとする企業や知り合いからの寄付で成り立っている。

また、山崎さんはコンビニの廃棄という食品ロスの多さに目を付けた。「ロスがどのようにすれば笑顔に変えられるか」と考えた結果、近くのファミリーマートと連携した。さらに、ファミリーマートでは個人からの寄付の受け取りと保管をしてくれているという。個人の寄付者は持って行先が分からない人が多い。その問題をコンビニで受け取るということで解消している。実際に、ファミリーマートで受け取る寄付は全体の寄付の半数を占めている。

企業からの子ども食堂への支援は、寄付という物の支援だけではない。例えば、日進絆子ども食堂は350坪の畑を所有している。その畑を耕すために、デンソーが10人ほどボランティアとしてスタッフを派遣をしてくれるという。その他の企業も子ども食堂のホームページの作成に協力してもらうなどの支援を受けている。山崎さんは、これらの寄付以外の支

援も非常に助かっていると仰っていた。そして、これらの活動は企業の社会貢献やSDGsの一環として行われているため、双方がプラスになっていると言える。

また、山崎さんは「子ども食堂と市や社会福祉協議会などが協力して後方支援をしていくことが大事。本当に必要としている人たちに届けることが一番。」と仰っており、改めて本当に必要としている人たちへ届けることの大切さと難しさを感じた。

山崎さんの奥様は、「現在はコロナにより場所が使えずフードパントリーのみの開催だが、食材を受け取った人たちからの“ありがとう”の声がやりがいになっている。」と仰っていた。利用者の中には、子どもの写真付きで感謝のメッセージを渡して下さる方もいた。

配布食材



車の窓から食材を渡している様子



日進絆子ども食堂のフードパントリーに参加して

安松亮

○日時 令和3年1月10日 日曜日 10:00~11:00

○場所 にぎわい交流館駐車場にてドライブスルーの形で開催。

○当日の流れ 9時半から寄付物を30世帯分に袋への仕分け。10時から車の交通整理し、一家族ずつ車へ配布する。10時半頃には用意した全てを配り終え、11時に解散。

○配布食材 お米1キロ・そば・レトルトカレー・玉葱・お菓子・リポビタミンDキッズ・エナジードリンク・その他

○寄付者 大正製薬・JA尾東・絆子ども食堂ファーム・他多くのファミリーマート三本木町点への寄付・その他個人の方々

○日進絆子ども食堂の概要 フードパントリーは去年の3月から開始した。市と社会福祉士協議会から協力を受け運営している。フードパントリーなどの寄付物は知っている人が直接届けに来てくれたり、近くのファミリーマートが受け取り流してくれるシステムを確立している。また個人の半数は持って行く先が分からない状況がある。

また企業の寄付も多い。例えば神戸物産、流通関係、トヨタグループ、しんわである。その目的としては社会貢献、SDGsを果たすためだ。またデンソーでは畑350坪をボランティア10人派遣して耕してくれたこともある。またある企業ではホームページを作ってもらなど物の支援だけじゃないことも多々あり、すごく助かっていると述べた。

○感想 今回フードパントリーに参加して、直接関わることで見られた調査研究をフィードバックして欲しいとおっしゃっていたので、どういう企業が展開しているのか、動機や原動力は何かといった今回進めている調査をしっかりと形にしてフィードバックしたいと思った。企業の、社員のモチベはあがったのか、顧客の反応はどうかなどの声を届けることが寄附文化の発展に役立てられると改めて思った。また絆子ども食堂ではコンビニの食品ロスが多いことに目を向け「ロスがどのようにすれば笑顔に変えられるか」という考えかたからの行動力はすごいと思った。現在コロナ禍で場所が使えないことから子ども食堂の開催が難しいが子どもたちの「ありがとう」の声がやりがい、作りがいになると思うので早くコロナの収束を願い活動を続けていきたいと思った。



【かたろう食堂 報告書】

上條人生

開催地：緑区鳴海町字鉾の木 17-2

開催日：2020年12月5日(土)

開催日時：10:00~12:00

開催者：NPO 法人 かたひらかたろう

開催内容：クリスマススタンプラリー

利用人数：70人から80人程度の子どもや家族

今回は、町全体を使ったクリスマススタンプラリーのボランティアに参加した。私を含めた成ゼミの学生は近くの公園に設置されたゴール地点で、わなげの係と景品を渡す係を担当した。全てのスタンプをゲットし、ゴールした子どもたちはわなげ6投に挑戦し、入っても入らなくても全員に景品を配った。わなげは幼児、小学校低学年、小学校高学年の3つに分け、それぞれ投げる位置も私たちが考えて設定した。私は主に景品を渡す係を担当し、ゴールした子どもたちに景品の説明を行った。景品は、お菓子やおもちゃ、シャボン玉や指輪など全部で7種類あり、1人2種類の景品を選んでもらい、コロナ対策として景品は一度触ったら決定という条件があった。

このスタンプラリーはコロナ対策として屋外で何かできることをしたいという思いから開催されたそうで、かたひらかたろうさんだけでなく町内の様々な人たちの協力を得て開催された。スタンプチェックポイントは複数あり、「みんなのかかりつけ 訪問看護ステーション 緑 コトノハの森保育園」では看護体験を行っていた。その他にも北浦町内会さんやいっぷく茶屋さん、近所の子ども会の親御さんもボランティアに参加し、大人数でのスタンプラリーだった。代表の小林さんも「皆さんの協力のおかげで子どもたちが楽しそうにスタンプラリーをしていました。ありがとうございます。」と仰っていた。また、「これをきっかけに町内での子どもネットワークを広げ、お互いに支え合って活動していけたら良いと思っています。」と仰っていて、子ども食堂だけでなく、町内会や子ども会も一緒に地域を盛り上げていく姿は素晴らしいと思った。

当日は天候にも恵まれて、多くの子どもや家族が参加していて、凄く盛り上がっていた。ゴール地点が大きな公園だったため、景品をもらった子どもたちがおもちゃで遊んでいた。「こんなに飛ぶよ！」と竹とんぼやプロペラのおもちゃを見せてくれた。コロナ禍ではあるが、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿を見ることができて私も嬉しかった。



サンタの格好をしました。



【わなげをしている様子】



みずほみんなの食堂

<p>1. 子ども食堂紹介</p> <p>場 所:名古屋市瑞穂区高田町 1-8-1 my はうす</p> <p>参加日時: 11月22日(日)</p> <p>参加費: 高校生まで: 無料 大人: 300円</p> <p>配布人数: 弁当配布 30食 パントリー50</p> <p>献 立: ごはん、ウインナー、春雨とひき肉の炒め物、ポテトサラダ</p> <p>記録者: 山手一輝</p>	
<p>2. 当日の流れ</p>	
<p>10:30～ 集合、説明開始</p> <p>11:00～ パントリーの詰め込み作業</p> <p>12:00～ 弁当&パントリー配布開始</p> <p>12:30～ 片付け</p>	
<p>3.感想</p>	
<p>コロナがより広がってきたことから、今回はあおぞらランチをやめ、お弁当を作り配布することになった。</p> <p>時間変更があったため、開始時間よりも前に人が集まり、開始時には既にほとんどのものが無くなっているような状態だった。</p>	
<p>4. 写真</p>	
	

みずほみんなの食堂

1. 子ども食堂紹介

場 所：名古屋市瑞穂区高田町 1-8-1 my はうす

参加日時：9月27日（日）

参加費：高校生まで：無料 大人：300円

配布人数：ランチ 30食 パントリー50

献 立：カレー、味噌汁

記録者：山手一輝



2. 当日の流れ

10：00～ 集合、説明開始

10：30～ パントリーの詰め込み作業

11：30～ あおぞらランチ&パントリー開始

12：30～ 片付け

3.感想

コロナ禍ということで、建物内での食事は無くなり、パントリーの配布とあおぞらランチという形になった。多くの方が集まり、パントリーに関しては配布開始して数十分で全て無くなってしまった。

カレーライスは人気で、あおぞらランチにも人がまばらながらに集まった。

4. 写真



八月二十二日 フードパントリーIN 豊田 活動報告

竹中陸人

1日の流れ

午前 長久手イケアで食品受け取り式 食品受け取り、冷凍肉受け取り

午後 フードパントリー

午前 長久手イケアで食品受け取り式 食品受け取り

朝八時半から長久手イケアにて諸品を受け取りにいった。内容はグミと、トマトソースをほぼトラック一杯分いただいた。搬入がとても大変だった。長久手イケアでいただいたものは食材のロスではなく、全て寄付によるものでこのようなカタチがベストであると感じた。

イケアでもこのような取り組みは初のようなので引き続き良い関係を保つと同時に、外資系の企業は日本の企業と違い、ボランティアの意識が高いのではないかと感じた。

豊田市に移り冷凍車で冷凍肉を受け取った。



こちらは冷凍肉



こちらはイケア

イケアからの食材か思いのほかたくさんあり、毎回このクオリティのものをいただけるのであればありがたいし大切な支援先であることは間違いない。このような企業の獲得が大切である。

午後 フードパントリーIN 豊田

午後はこれまでの集大成であるフードパントリーIN 豊田を行った。参加団体は

団体名	人数	時間
1 中野将(学習支援直営実施分)	15	1:00
2 柴田美智子(ぬくもり・ねっと)	15	1:10
3 かとうさきこ(みらいてんし)	20	1:20
4 かとうさきこ(天使のかけはし)	15	1:30
5 山二愛子(山二食堂)	40	1:40
6 副(ぐうぐう食堂)	100	1:50
7 増田(クックくらがいけ)	70	2:00
8 今西モト子(ゆるっとほっとかふえ)	20	2:10
9 城(まんぶく)	9	2:20
10 おばあちゃんと抹茶	10	2:30
11 飯田(地域助け合いの会)	35	2:40
12 あおぞら	20	2:50
13 トルシーダ	50	3:00
14 小黒(一般社団法人いま・ここ)	10	3:10
15 新柳海陽会 瑞穂	10	不明
16 新柳海陽会 瑞穂	10	不明
合計	429	

Handwritten notes on the page:

- 12月・2月 15 15 152 20 18 8
- 429 ÷ 62.82 = 5.47
- 参加人数 + 10 = ... (circled)
- 10 回 ...
- 59

これらの子ども食堂、学習支援含め

これらの子ども食堂、学習支援含め十六団体 449 人であった。予約制の搬入の時間を含め十分ごとにきていただけるようにし、感染症対策を行った。事前に登録していただいたフードバンクの公式ラインにて配布量を写真で送り、アンケートも告知した。

初めてにしては大成功というか、失敗の要素が無かったと感じた。

当日は成ゼミの学生ボランティアの他、社協の大地さん川上さん、市役所の中野さんや偶

然見かけてきた政治家など多くの人出现在了。目標であった中日新聞の記者も取材にきており、規模以上に大がかり感が出たパントリーとなった。

今回の感想は、準備段階でどれだけ配るだけにしておくかの大切さと、予約制は必須であることを痛感した。

準備段階で配るだけにしておくことは当日の思わぬアクシデント、今回でいうことのイケアからの食材が多かったことに対応できた。準備前ではトラック一台でいけるという見込みであったが完全に準備すると足りないことが把握できた。さらに当日のボランティアに体して的確な指示が出せる。これは今回ある程度理解のある学生であったためほとんど必要なかったが、一般の方と活動をしていく際には重要である。

予約制の必要を感じたのは当日量だけを配るとなると単なるばらまきになってしまう。悪いことではないが配る側の責任が果たせない。さらに取らぬ狸の皮算用になりかねないし、その反対もありうる。皆の善意から負担をかけあうボランティア活動に対して排除できるリスクはできるだけ排除することが必要である。

今回はいかに準備が必要かということが分かった。

【フードパントリー 報告書】

上條人生

日付：2020年8月22日(土)

天候：晴れ

場所：豊田市福祉センター 駐車場

時間：13時から15時半 予約制

開催者：フードバンク愛知

8月22日にフードバンク愛知さんが開催したフードパントリーに参加した。今回初めて豊田市でフードパントリーが開催された。コロナ禍により密を避けるため、予約制であり受け取る時間をずらすといった対策が取られていた。参加した団体は、豊田市の子ども食堂や学習支援を行っている方など16団体で、受け取る人数は約490人。参加された中にはわざわざ岐阜県から来られた方もいた。

また、フードパントリーには成先生が要請された中日新聞の記者や豊田市社協の方、その他多くの人が出て、想像していたよりも大規模なフードパントリーだった。

私たち学生は、取りに来られた車の誘導と食材の積み下ろしの二手に分かれ手伝った。私は安松さんと食材の積み下ろし作業を担当した。受け取りの予約時間が10分おきだったため、なるべくスムーズに積み下ろしをしなければならなかった。配布人数が10名分の団体から100名分の団体まであり、食材が多いところは予め積みやすいように分けておき、効率よく作業ができるような工夫もした。

当日は晴れていて気温が高かったため、フードバンク愛知さんから頂いたうちわを扇いたり、こまめに水分補給を取ったりという熱中症対策も行った。

さらに、食材を配布するだけでなく、ゼミで作成した「サンクスカード」も配布した。食材を受け取った子どもや親御さんからの声や、子ども食堂や学習支援を行っているスタッフからの声を集めるためのものである。サンクスカードは自分たちで一から文章やデザインを考えた。実際にどれくらい返ってくるかは分からないが、なるべく多くの方からの声が集まると良いと思う。

今回、食材を配布する側としてフードパントリーに参加したことで、新たな発見があった。まずは、受け取りに来た方からの感謝の言葉や笑顔を見ることができ、私も嬉しく参加して良かったと思った。子ども食堂を運営している人は、子どもや親御さんから同じように感謝の言葉をもらったり、笑顔を見ることがやりがいになっていると以前のレポートでも記述したが、今回は自ら経験したことで改めて感じた。

また、フードパントリーを開催することは多くの人々の支援や協力を得ていると再確認した。今回のフードパントリーで配布した食材はイケアやバロー、海外の食品会社などから寄付して頂いたものであった。それを配布するフードバンク愛知さんの準備や開催する場所を確保することなど、しなければならないことは多いと分かった。

私たちは当日のみの参加だったが、竹中くんは代表として、数日前からフードバンク愛知さんとの話し合いやトラックに食材を積む作業などをしてくれていて凄く助かった。当日も中日新聞の記者からインタビューされていて頼もしかった。

フードバンク愛知、フードパントリー

<p>1. フードパントリー</p> <p>場 所：豊田福祉センター 参加日時：8月22日（土） 参加費：無料 配布人数：16団体 配布物：飲料、菓子、フリーズドライスープ、 冷凍牛肉、フルーチェなど 記録者：山手一輝</p>	
<p>2. 当日の流れ</p>	
<p>12：00～ 集合 12：30～ 配布物の確認 13：00～ 配布開始 15：30～ 終了</p>	
<p>3. 感想</p>	
<p>想像以上に多くの団体が受け取りに来ていて驚いた。車誘導の仕事を基本的にはして いて、各団体の受け取り時間が決まっていたが、それでもかぶってしまうことがあり大変だ った。</p> <p>配っているものの種類を見てみると、高額な物もあってとても驚いた。</p>	
<p>4. 写真</p>	
	

フードバンク愛知さんのボランティア活動に参加して

安松亮

○概要

私は8月22日にフードバンク愛知さんの行うフードパントリーにボランティアとして参加した。成ゼミからは6人が携わった。場所は豊田市福祉センターの第二駐車場で開催された。今回のボランティアの内容として、企業からのいただいた食材を子ども食堂に配布するというものだ。三台の大型トラックにパンパンに積まれた食材を子ども食堂の方が車で受け取りに来てそこに一気に詰め込む。また一つ一つの子どもの食堂の受け取りの時間を10分ずつずらして行ったことでスムーズに動けた。そして野外でドライブスルーのような形を取ることでコロナウイルスの感染対策にも努めている。

また今回参加目的の一つでもあるのがサンクスカードの配布だ。サンクスカードとは今回、私達ゼミ生が作った、食品の配布してくれた企業に対して利用者の生の声を届けたいというものだ。企業側に生の声届けることでより一層、感謝の気持ちを身近に感じられるのではないかということだ。今回のフードパントリーで食材と共に配布して感想を書いてもらい郵便で成ゼミに集めたいが実際集まるのかどうかを試行する。そして改善していき次に繋げていき、より多くの声を集めたいと願う。

○感想

真夏日で気温が高くの日差しの強い中でのボランティア活動だった。10~100人分の食材をトラックから下ろし車に積む作業を14回繰り返すのはとてもキツかった。しかしこの食材が子ども達の手が届き、喜んでいる姿を想像するとやる気が出た。コロナによって苦しむ子ども達が増えている今だからこそ少しでも多くのボランティアに参加して笑顔の増える世の中にしたいと今回の活動を通して改めて思った。またフードバンク愛知さんは今後、より活動範囲を広げ、より大きな組織となると思うので今、携われることに感謝して、これからも手伝っていきたいと思った。

○参加した子ども食堂

学習支援直営実施分、ぬくもりねっと、みらいてんし、天使のかけはし、山二食堂、ぐうぐう食堂、クックくらがいけ、ゆるっとほっとかふえ、まんぷく、おばあちゃんと抹茶、地域助け合いの会、あおぞら、トルシーダ、一般社団法人いまここ

八月二十一日 フードバンク愛知ボランティア活動記録

竹中陸人

1日の流れ

午前中 16団体 449人分のフードパントリーの前日準備

午後 愛知子ども食堂ネットワークの米パントリーの手伝い

 パローでの食材引き取りの方法の子ども食堂運営者への教授

 自宅でサンクスカード用意

午前

フードパントリー前日準備

フードパントリー前日準備は参加予定の16団体449人分をパレット（フォークリフトで運ぶための下の台）に団体ごとに分けて整理した。人手がいれば楽な作業のはずだが、少なかったのでそこそこしんどい作業になった。

内容はサンマ水煮缶、スパム缶、カルピスウォーター、飲むヨーグルナ、わかめスープ、乾燥味噌汁、豆乳飲料、ジュースを準備を行った。改めて文字にしてみると液体が多い。これらをラップで包み、当日朝、トラックに積み込み出発という流れだ。



当日の運営方法はドライブスルー方式で行い、案内係、積み込み係を設けることを決定した。場所がそれなりに大きい駐車場であるため、ボランティアが多く参加する見込みがあること等を考慮しそのようなカタチとなった。

愛知子ども食堂ネットワークの米パントリーの手伝い

愛知子ども食堂ネットワークが、フードバンク愛知の一角を借り、おこなった。内容は株式会社クエタトレーディングからいただいたお米と、デンソーからぷっちょ、愛知県漁業組合・愛知海苔昭和からの焼き海苔を配っていた。偶然のその場へ居合わせたので車への積み込みを手伝わせていただいた。名簿の入手には失敗した。

愛知子ども食堂ネットワークの山崎さんが指揮を執り、おこなった。その後、同じく千葉さんと、横井さんという方にバローの食材受け取りを教え、行った。



今回いただいた海苔は元々展示会などで試食用に準備していたものがコロナの影響でなくなったため、余ったものをいただいたそうだ。

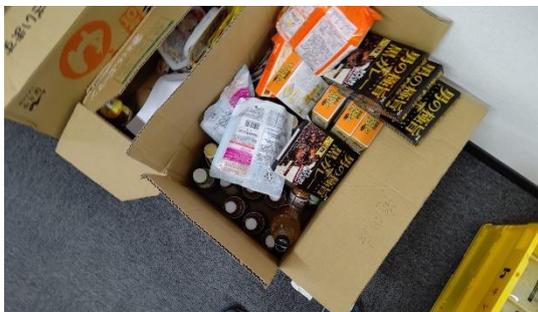
サンクスカード準備

ボランティアが後、自宅に帰ってから参加団体へ配るサンクスカードの準備をした。この作業が準備、パントリーを含め一番大変だった。

八月二十日 フードバンク愛知ボランティア活動記録

竹中陸人

1日の流れ

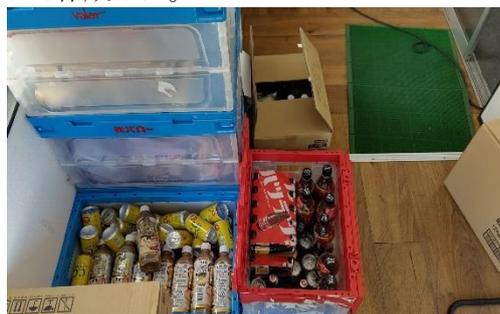


午前中 北名古屋のジェイロジコムにて豊田パントリー（一部）の用意

午後 バローでの食材引き取り

午前中は屋内で昨日回収していただいたパントリーの食材を見せて貰い、困窮者家庭向けの表には出さない食材を詰めた。

内容はお米五キロ、乾麺、レトルトカレーやペットボトルのジュースなど簡単に食べられるものを中心に、一週間分くらいのイメージで作成した。



いただいた食品を



箱に詰めました。そのほかにもたくさんいただいています。



午後の食品回収 フードバンク愛知は継続的な食支援のために、バローの店舗から継続的に食品のロスになりそうなものを受け取っている。この働きは現在 13 の店舗で行っているが、いずれは愛知県内の全店舗で行う予定だ。

同行して思ったことは始めたばかりの事業の為、店長が把握していなく無駄足になってしまうことだ。これは法人と行っている事業のため、いずれ浸透していくが全店舗となるとそれに時間がかかってしまう。バローの店長を集めるなどして説明を行うべきだと感じた。

さらに問題なのはあまり食品をいただけない場合だ。定期的に店舗に足を運ぶのはいいものの、この日行った回収では缶コーヒー一本だけの所があった。季節や地域によって劇的に変化する不安定な支援である。

このような無駄足を踏まないためにバローが「フードバンク愛知コード」なるものをつくり、在庫の確認などを行うシステムができかけている。

愛知県内全てのバローから食材を受け取るにはフードバンク愛知だけではとても人手が足りない。そこで地域の子ども食堂に受け取って貰う形をとろうとしている。実際に何件か行っているが、フードバンク愛知のスタッフとしていくが、直接は関われ無く、管理しきれないので受け取る側の教育が必要である。特にビジネスマンやお金を貰って働く人と、無償でボランティアを行っている人は考え方の違いがたくさんあるため、そこでトラブルが起きるのではと懸念している。

八月十九日 フードバンク愛知ボランティア活動記録

竹中陸人

1日の流れ

午前中 中日新聞へ取材

午後 昼からサンエース社長 小杉さん（中京大 OB）と商談

15 時頃から豊田福祉センターでフードバンク愛知の活動に説明、パントリーの打ち合わせ

中日新聞の取材

近鉄蟹江駅に集合、そこから今日の流れを説明して貰い、蟹江の中日新聞社へ。

中日新聞の記者は中京大学 OB の伊勢村さん。内容はフードバンク愛知の活動内容紹介、東海三県の子ども食堂ネットワーク提携、10月のNHK特番に向けたPRのお願い。

こちらの狙い 新聞によるPR効果で多くの支援先の獲得、活動内容を理解して貰い、支援の輪を広げる。10月のNHK特番に向けてフードバンク愛知の活動、県内の食支援の状況を理解して貰う。

東海三県の子ども食堂ネットワーク提携について

この協定は子ども食堂運営、自然災害発生時に備えフードバンク愛知と愛知子ども食堂ネットワークが互いに協力し、子ども食堂のニーズと状況を迅速かつ的確に把握し、効率的にボランティア活動を行うと共に、ネットワークの強化を図るもの。

各団体で支援物資やボランティア、それぞれの情報を共有し、支援物資のお断りを減らす、なくすことが目的。

サンエース 小杉社長との商談

その場にいたのはサンエース小杉社長、サンエース税理士の山田さん、フードバンク愛知寺田社長、自分の四人。

サンエースは社会貢献事業を何かやりたい、フードバンク愛知は支援先を獲得したいという点から話し合いが起こった。

フードバンク愛知は廃棄処理のためのコスト、値札を貼る人件費、廃棄処理を寄付したらその分の税金が控除される、食支援を行うことで地域密着型スーパーが重要視する地域の好感度の上昇というサンエース側のメリットを上げた。

しかし、サンエース側は売れるギリギリまで売るスタイルで、さらに廃棄コストは節税対策（脱税気味）をしているため、実質的なサンエース側のメリットは内という結論になり、お客さんに定価で商品を買って貰い、寄付BOX 的などところに入れて貰うという方法を提案し終了した。

原因としてはサンエースが店舗数が少ない小中規模のスーパーなので、売り上げ管理が行き届いていたこと、そういった会社の損金処理を税務署が取り締まる力が無いということ。生鮮食品のロスが多い（月八から十万円）がそれはフードバンク愛知は受け取ることが出来ないこと（賞味期限1ヶ月以上でないを受け取れない）が上げられる。

豊田社協での打ち合わせ

行ったことは中日新聞と同じくフードバンク愛知の活動説明、豊田のパントリーの打ち

合わせ

豊田市職員の中野さん、社協の川上さん、大地さん、寺田社長、自分の五人で行った。中野さんからは豊田子ども食堂ネットワークの交流会の話や社協を通しての学習支援、豊田市には独自の食糧支援ネットワークがあることを伺った。

フードパントリーの打ち合わせでは参加団体と場所の確認を行った。

なぜフードバンク愛知を立ち上げたのか

現フードバンク愛知理事でセカンドハーベストの代表であった方にお願ひされたから。ジェイロジコム物流網を生かし、静脈物流（廃棄の流れ）を有効に使う。

それにより新しい物流網の獲得というメリットを感じ、また、社会的意義を感じておこなっている。

ただのボランティアでは企業は動かず、善意と損失では日本の会社は動きにくい。



社会問題解決型ビジネス

【かたろう食堂報告書】

上條人生

開催地：緑区鳴海町字鉢の木 17-2

開催日：2020年8月1日(土)

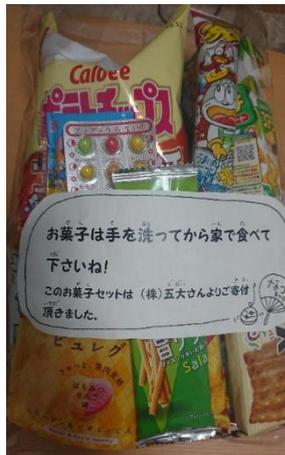
開催日時：13:00~16:00

開催者：NPO法人 かたひらかたろう

開催内容：くじ引き・お菓子の詰め合わせ配布・アクセサリ作り

利用人数：子ども 40人

お菓子の詰め合わせ



くじ引きの景品



かたろう食堂はNPO法人 かたひらかたろうさんが主体となり、毎月第一土曜日に開催している。ボランティアは地域の親御さんたちで、その子どもたちも子ども食堂に来ていた。子ども食堂として行っていたのは、くじ引き・お菓子の詰め合わせ配布・アクセサリ作りだ。くじ引きは、子ども食堂に来た子どもたちがくじを引いて、景品をもらおうといったもの。そして、子どもたち一人ひとりにお菓子の詰め合わせを渡していた。お菓子の詰め合わせは、近くの五大という建設会社さんから寄付してもらったそう。くじ引きとお菓子の詰め合わせをもらって帰る子どもたちもいた。アクセサリ作りは、ボランティアの親御さんが子どもに教えていた。

学生ボランティアは成ゼミ4年の奥野くん、大畑くん、杉岡さん、そして私の4人だった。私たちは主に子どもたちと遊ぶことを任された。始めは、家の中で子どもたちが絵を書いたり、おもちゃで遊んだりしている相手をしていた。そして、天気が良くとても晴れていたため、途中で近くの公園に行きセミを捕まえたり、かくれんぼをしたり、少し水遊びをしたりして遊んだ。

コロナ対策としては、マスクの着用、アルコール消毒、検温、換気などがされていた。また、家の中に入る人は「新型コロナウイルス感染症に関する問診票」を記入した。この問診票は、体調を確認する意味と、もし子ども食堂で感染者が出た場合に連絡ができるようにと、いうことで記入をお願いしていた。



セミを捕まえている様子

新型コロナウイルス感染症に関する問診票

2020年 月 日

【新型コロナウイルス感染症に関する問診票】

来所される皆様は安心安全にコロナチェックを実施して頂く為に
ご診察・連絡先のご記入をお願いします。

	観	不
① 発熱の有無	はい/いいえ	はい/いいえ
② 悪寒・寒気はありますか?	はい/いいえ	はい/いいえ
③ のど「はい/いいえ」が赤くなっていますか?	はい/いいえ	はい/いいえ
④ だるさ(倦怠感) 悪化していますか?	はい/いいえ	はい/いいえ
⑤ 新型コロナウイルス感染症、またはその疑いがあるとの 接触がありますか?	はい/いいえ	はい/いいえ

名前 <姓> _____ <名> _____

生年 _____

電話番号 _____

【以下は代表の小林さんにお聞きした話】

コロナ以前のかたろう食堂は平均 50 人弱の人が利用していた。ご飯を食べることに加え今年度から中高生が放課後に来れるような居場所づくりをしたいと考えていた。家にいてもすることがない子や部活動がない子、学校に行きたくない子たちといった様々な子どもたちが集まる場所になれるといい。

しかし、コロナによりこれはできなくなり、子ども食堂としての目的が分からなくなった。というのも、かたろう食堂は、多世代交流の場所、そして地域の人との交流ができる場所として子ども食堂を作りたいと考えている。一度は目的が分からなくなったが、話し合いをして、多世代交流の場でありたいという原点に戻った。

現在の利用者は子どもが中心であるが、高齢者や近くの施設の障害者の人たちも対象にしていきたい。今後、どのように工夫すれば良いのか模索中である。

- 【寄付として頂いているもの】
- 建設会社五大さん：お菓子、寄付金
 - 近くのスーパー：お弁当、パン
 - 利用者の知り合いの農家さん：お米

今回、初めてかたろう食堂さんに行かせていただいて、皆さんお優しく暖かい子ども食堂という印象を受けた。私たち学生ボランティアは主に子どもたちと遊んでいたのだが、小林さんから「学生さんが来てくれると子どもたちも嬉しいし、空気を変えてくれる。子どもたちがイキイキしている。」と仰って下さり、私も嬉しかった。子どもたちは保育園の子から小学6年生の子までいて、家の中で遊んでいる時も元気だったが、外に遊びに行くと更に元気になり、笑顔も多く見られた。みんなでセミを捕まえたり、かくれんぼをしたり、水遊

びをしたりして、子どもたちの楽しそうな姿を見ると、やはり子どもは外で遊ぶことが大好きなんだなと感じた。現在は、コロナ禍で外出自粛ムードになっているが、子どもたちにとって外で遊ぶことは非常に重要なことだと思った。

コロナ対策としてアルコール消毒や検温があることは予測していたが、万一のために問診票まで用意していることに感心した。小林さんの話を聞いて、コロナにより多くの悩みがあり、スタッフで話し合い、試行錯誤しながら子ども食堂を開催していることが改めて分かった。

また、私たちが着いてすぐに飲み物を下さり、帰る際にもお菓子の詰め合わせと景品を頂き、感謝している。

1. 場所 名古屋市中区千代田 2-7-28 天理教本宏分協会

日にち 7月31日

行ったこと 二十三人分の食料（米、レトルトカレー、魚肉ソーセージ、お菓子二種、ジュース）の袋詰め、渡す作業、試作アンケートの配布

最初に案内された和室の間に食料がつんであり説明を受けながら準備を行った。詰める前と詰めた後の袋にはアルコール消毒を行った。（16:00～17:00）詰めながら子ども食堂に関してや食糧支援のお話を伺った。

17:00 から受け渡しを行った。今回は未就学児向けとのことだったので小さい子連れの家族のみの来店で、子どもは二人以上がほとんどだった。店の玄関のところで予約された方を待つ間にまたお話を伺うことが出来た。食料配布だけではなく開催されるはずだったお祭りの景品も配布した。また、横側には自由に持って行って良いジュースやお菓子、ドレッシングが置いてあった。寄付で大半はまかなわれており、キュービーみらいたまご財団、名古屋名東ロータリークラブ、フードバンク愛知、愛知県子ども食堂ネットワークからいただいたものだった。



2. コロナ禍の子ども食堂の活動について

第一に感染者を出さないことを重視して大作はちゃんとしている。（日赤の寄付の消毒液）他の子ども食堂と同じように食料、弁当配布を行い、各回に年齢制限をかけ集まる年齢層を確定させそれに応じて内容を決めるそうだ。隣の部屋には多くの支援物資があるがしゃしんNGとのこと。それなりの種類と量があった。



本当に危ない家庭には個別配送を週3から5日行っており、そのような家庭は現在は2件扱っているとのこと。

以前は一宮市から来たこともあり、各地域の貧困家庭の共有が出来ないといけなとおっしゃっていた。

基本的には自分の地域の居場所となりつつこぼれた人々を救ってあげたいという考えで、予約制にしているのは支援の足場を崩してはいけないという考えのもとだった。

フードバンク愛知に関わっていることを伝えると辛口の意見をいただいたので記録しておく。まず情報発信能力が低い。ある程度フェイスブックはチェックしているのに急に〇〇に寄付しました！！みたいな記事は、皆支援物資を受けたい中、不公平だと感じる人も多いのではないか。もし公開できるのであれば、何がどこにあるか等のデポごとの在庫情報があると良い。むすびえのような支援の仕方が一番行いやすい。フードバンク愛知に問い合わせると子ども食堂ネットワークに、子ども食堂ネットワークを訪ねると分からないといわれどうしたらよいか分からなかった。

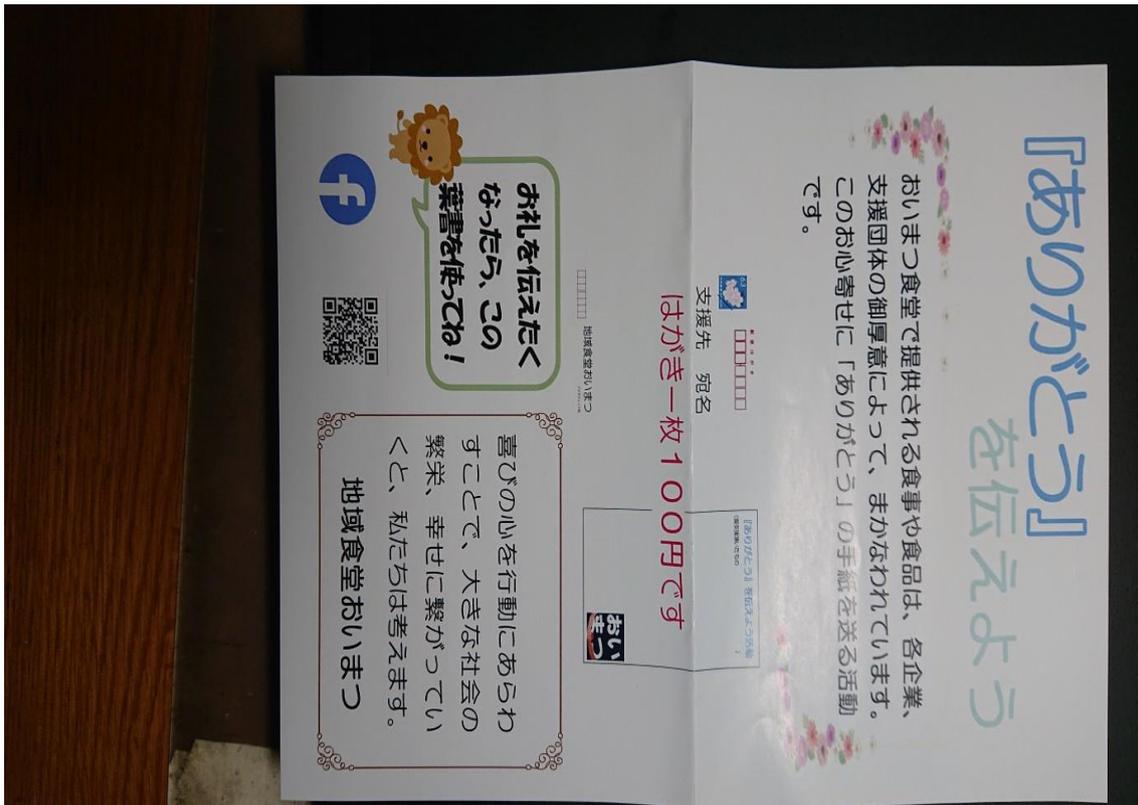
社協もセカンドハーベストも支援物資の申請がなかなか通らずフードバンク愛知が

機能すれば良くなるので期待している。

3. 感想

考え方も行動の仕方も速水さんのなかよしごはんに似ているなど感じた。フードバンク愛知の SNS の使い方にはそこそこ腹が立っている様子でした。至急情報発信のしかたを変えなくてはいけないと感じた。子ども食堂から生の感謝の声を届けるためにはがきを書く活動を行っているのは良くそこにたどり着いたなど感じた。

聞けば聞くほど現場の声か聞こえそうな場所なので引き続き関わっていきたいと考える。



子ども食堂での”たのしかったこと”や”好きなメニュー”“こうなったらいいな”などどんなことでもいいのでかいてください！

ようちえん・ほいくえん・小学生・中学生・高校生・大人・スタッフ (〇をつけ)

ご協力ありがとうございました。

中京大学 成ゼミ

試作アンケート